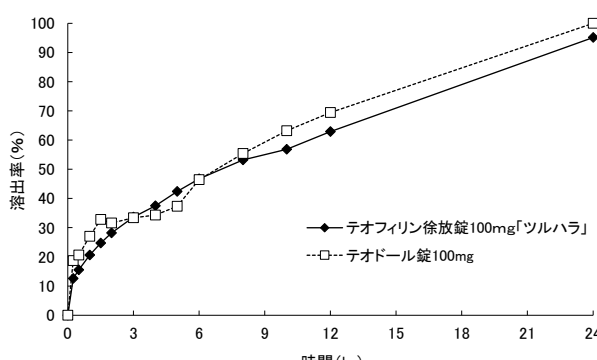
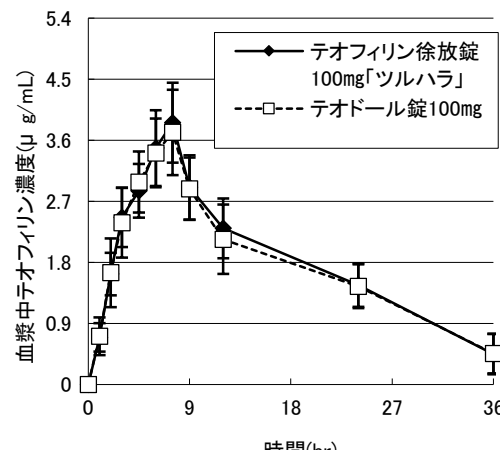


製品別比較表

2025 年 4 月改訂

商品名	テオフィリン徐放錠 100mg「ツルハラ」		テオドール錠 100mg	
会社名	鶴原製薬株式会社			
薬価	5.90 円／錠		6.10 円／錠	
薬効分類名	キサンチン系気管支拡張剤／225			
組成	1 錠中テオフィリン 100mg 含有			
性状	白色（表面が不定形の斑点状を呈する） 片面割線入り徐放錠 識別記号：TSU 383 直径：約8.5mm 厚さ：約4.2mm 質量：約240mg		白色・表面が不定形の斑点状を呈する割線入りの徐放性錠剤 直径：9.6mm 厚さ：3.9mm 重量：300mg	
添加物	乳糖水和物、結晶セルロース、硬化油、軽質無水ケイ酸、エチルセルロース、ステアリン酸マグネシウム		白糖、トウモロコシデンプン、粉糖、乳糖水和物、ステアリン酸マグネシウム、アラビアゴム、セラセフェート、タルク、ラウリル硫酸ナトリウム、ステアリン酸グリセリン、サラシミツロウ、セタノール、ミリスチルアルコール、フタル酸ジエチル	
効能・効果	○気管支喘息 ○喘息性（様）気管支炎 ○慢性気管支炎 ○肺気腫			
用法・用量	通常成人 1 回テオフィリンとして 200mg を、小児 1 回テオフィリンとして 100～200mg を 1 日 2 回、朝及び就寝前に経口投与する。また、気管支喘息については、テオフィリンとして成人 1 回 400mg を、1 日 1 回就寝前に経口投与することもできる。 なお、年齢、症状に応じ適宜増減する。			
溶出挙動の同等性(局外規による溶出試験) 生物学的同等性(血中濃度の推移)	日本薬局方外医薬品規格第三部「テオフィリン徐放錠」の判定基準に適合した。(溶出規格b) 試験液:pH6.8のリン酸塩緩衝液(1→2)、 回転率：毎分50回転、第2法 規定時間-溶出率：90分-15～45%、6時間-35～65%、24時間-85%以上（オレンジブックNo. 3掲載）  両製剤の溶出挙動は同等であった。		健康成人男子12名に各2錠ずつ（テオフィリンとして200mg）をクロスオーバー法によって空腹時経口投与した。両製剤の血中濃度の推移は同等であった。  (mean±S.E.、n=12)	